

### ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

千葉県における2016年2月の定点当たり報告数は0.44となった。長い期間で見ると患者報告数は減少傾向にあり、特に年齢群別で5歳未満の患者数が減少した(図)。そのため、2006年～2015年に報告された3,159例の発生動向をまとめた。

図 2006年～2015年千葉県のペニシリン耐性肺炎球菌感染症  
年齢群別定点当たり報告数

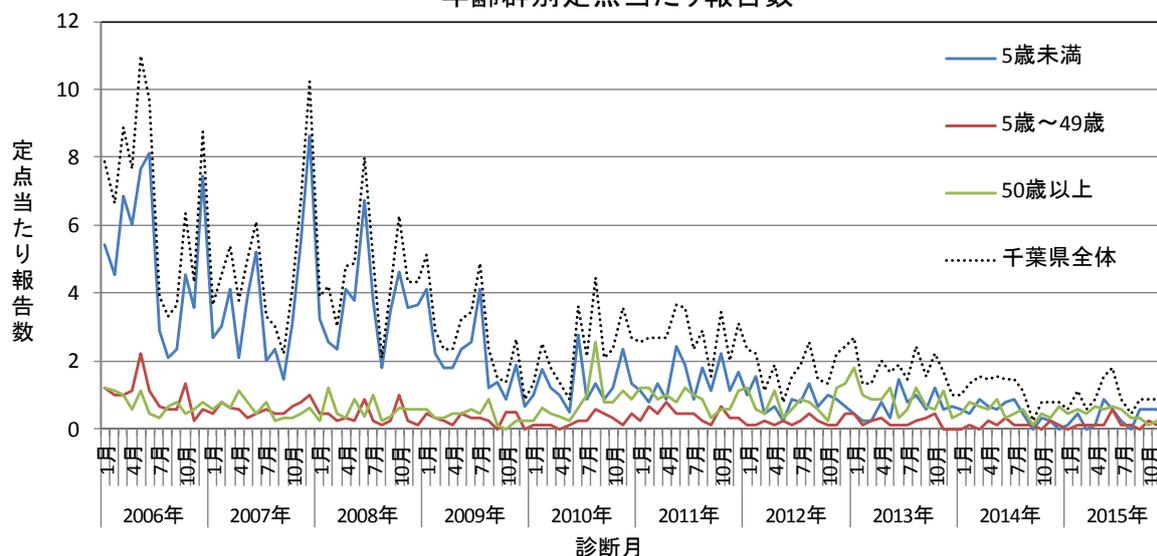


表 2006年～2015年千葉県のペニシリン耐性肺炎球菌感染症 年別・性別・年齢群別報告数

		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	合計	
												報告数	%
性別	男性	420	291	268	173	149	169	108	107	66	57	1808	57.2
	女性	310	217	208	118	99	129	88	84	55	43	1351	42.8
年齢群	5歳未満	547	384	378	220	139	155	91	74	52	37	2077	65.7
	5～9歳	59	37	18	12	9	24	8	10	6	5	188	6.0
	10代	12	7	4	7	1	3	3	1	2	1	41	1.3
	20代	12	3	6	2	3	6	0	1	2	2	37	1.2
	30代	13	12	8	4	5	5	6	8	2	3	66	2.1
	40代	7	3	2	5	7	8	5	2	1	3	43	1.4
	50代	17	7	12	4	7	10	5	4	3	1	70	2.2
	60代	21	19	10	13	23	23	19	20	14	11	173	5.5
	70代	30	20	24	11	25	25	28	30	19	17	229	7.2
	80代	11	12	12	12	26	35	25	33	19	15	200	6.3
	90代	1	3	2	1	3	4	6	8	1	5	34	1.1
100歳以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0	
合計		730	508	476	291	248	298	196	191	121	100	3159	100.0

性別では、男性1,808例(57.2%)、女性1,351例(42.8%)であった(表)。

年齢群別では、5歳未満が2,077例(65.7%)で最も多い(表)。5歳未満の占める割合は、2006年の74.9%から2015年は37.0%に減少した。

採取部位として報告されたのは、その他1,620例(51.3%)、喀痰1,318例(41.7%)、血液117例(3.7%)、耳漏液73例(2.3%)、髄液14例(0.4%)、創部9例(0.3%)、尿3例(0.1%)、気管洗浄液2例(0.1%)、胸水2例(0.1%)、腹水1例(0.0%)であった。